



お江戸舟遊び瓦版 1134号

水彩都市江東 こころ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田13-10

あぶみ あさき 「北欧の幸せな社会のつくり方」

—10代からの政治と選挙— かもがわ出版 20.5.1

はじめに

「なぜ、選挙の場に子どもや学生がいて、みんな楽しそうなんだろう？」とノルウェーで取材する中で、よく感じた疑問だ。上智大学進学後フランスに1年間留学、人の縁と学費無料というノルウェーに引っ越した。北欧社会が「母親や女性に優しい」と日本でも知られているが、女性、若者や子供の意見に耳を傾けるカルチャー・民主主義が広がっている。

第1章 選挙はお祭り！ 楽しい北欧流選挙

- 日本と違い、北欧はどこの国も選挙活動に厳しい規制がない。首都ヘルシンキでは、各所に政党がスタンドを設け、市民たちとおしゃべりをしている。「選挙小屋」とも呼ぶべき各党のスタンドはデザインも様々で、飲食物や文房具などが置かれ、市民に提供されている。
- 日本のような選挙力一や、駅前で大音量で演説する候補者はいない。候補者やボランティアは、ニコニコと笑顔で選挙スタンド周辺に立ち、市民が話しかけやすく、立ち入りやすい空間を作っている。
- 「自分の政党に投票するか、しないか」を気にしていない。相手が観光客でも、未成年者でも、真面目に判りやすく一生懸命に政治の説明をしてくれる。
- スウェーデンでは、国政・県市の地方選挙が同日に行われ、2018年の投票率は87.2%だった。選挙のたびに投票先を変える人は多い。政策に大きな違いがなく、直前まで迷っている人が多い。
- デンマークは各党の選挙スタンドがなく、選挙ポスターはサイズもデザインも多種多様で、何枚も貼る等場所取合戦が行われる
- ノルウェーでは、小学生が授業の課題で先生が用意した質問票を片手に、各党の選挙スタンドを回り、党員のお話しを真剣に聞いてメモしていた。この文化はかなり前からあるようだ。
- 政党が市民の自宅を訪ねたり、政策パンフレットを郵便箱に入れることは北欧では自由だ。

第2章 若者と考え作る民主主義

- 北欧では選挙前、全国各地で高校生が投票の練習「学校選挙」が開催される。正式な選挙には反映されないが、「未来の国の行方」を暗示していると、長期的な選挙分析に役立つと政治家やマスコミが注目する。
- 大学では、選挙権があることから、大学生党員たちがスタンドを立てて必死に政策をPRする。この国では、政治家が若者と必死に対話する規模の小さなフェミニスト党にも発言のチャンスが与えられるのは、民主主義の国を強く感じさせられる。



- 2015年、欧州の難民問題が話題となった。ノルウェー国会ではシリア難民を3年間かけて8000人受け入れるという法案が合意に至ったばかり。移民・難民に厳しい進歩党だけが猛反対した。難民との共存を否定的な大人に対して若者が圧倒的に共存に肯定的だ。
- オスロの高校の社会科の授業を覗かせてもらうと、授業の計画表は、このようになっていた。「政治、民主主義、人権とは何か/誰が権力を持ち、どうしたら私たちも決定のプロセスに携われるのか/ノルウェーの政治システム/ノルウェーの各政党の違いを理解する/福祉制度の役割と課題/経済的な成長・生活の質・持続可能性・・・」
- 北欧では各政党の違いはあまりないため、市民がどの政党に投票するか迷いやすい。そのため、有権者が政党や候補者の考え方と一致しているかを知ることができる「ポートマッチ」がある。



第3章 未来を担う若者たち

- 北欧では、市民が政党に所属して党員になることは、日本と比べものにならないレベルで「ふつう」のことだ。政治活動は部活動やサークルのような感覚に近い。孤独にならずに社会のネットワークに参加する手段として、団体に所属することを好む傾向がある。各党にある「青年部」には10~20代の若者が所属する。青年部の政策は独自で、メディアでも取り上げられる。
 - ノルウェー自由党青年部の総会には、大人の姿はなく、進行も若者自身だ。民主主義を尊重するためにも、誰もが判りやすい内容で、発言しやすい環境にすることが大事だ。討論の練習では、目の合わせ方などを学び、舞台で練習する。
 - 高校生や大学生が議員になることもでき、高校の授業を早退することもできる。北欧選挙では、候補者リストに10代の名前があるのは自然な光景だ。子供や若者が民主主義の象徴として大事にされるノルウェー。青年部は各党の心臓とも言える大事な存在だ。青年部の夏合宿は1年で一番大切なイベントである。
 - スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんから始まった気候変動デモは、言論の壁が北欧では早い段階で報道され、オスロでは毎週金曜日、若者が気候変動対策を求めるデモを行っている。
- グレタさんばかりに注目が集まるが、背後にはたくさんの若者がいることを忘れてはならない。
- グレタさんは、スウェーデン議会周辺でたった一人で「気候のための学校ストライキ」を始めた。彼女の静かなストライキは、首都から全国各地へ次第に広がり「未来のための金曜日」に。上下関係を重んじなければならない日本では、若い人が国会前に座り込んだり、大人の政治家に堂々と意見を言う光景をまず見ない。



第4章 日常にあふれる政治

- 北欧の政治家は選挙活動や日常のコミュニケーションの道具として、SNSを最大限活用する。法律上の規制はない。各党は自由にSNSを使う。芸能人が「選挙に行こう」とSNSに投稿するのは日常の光景だ。音楽祭で歌手がステージ上で政党や政治家を批判することも多い。高い税金を払っていることもあり「市民活動や文化事業には公的補助金が出たり、軽減・免税対象にされるのは当たり前」と考え、権力者に批判もする。
- 日本と北欧ではデモに対する考え方方が全く異なる。国会や市庁舎前での抗議活動は当たり前で、毎週デモがある。デモ参加者を変な目で見る人はいない。一人ひとりが声をあげることが当然だ。北欧だって完璧ではない。理想郷は存在しない。日本と異なる努力の積み上げをしている。



所感：幸せな社会は、皆の努力で創り上げていると著者は語る。小学生時代から民主主義教育を続け、6年生ではデモまで教えなければ民主主義は守れないようだ。学ばねばならない。（文責 中瀬）